

本資料のうち、枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 工事計画審査資料	
資料番号	KK7 本文-020-2 改2
提出年月日	2020年7月16日

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 工事計画審査資料  
その他発電用原子炉の附属施設 非常用電源設備のうち  
非常用発電装置  
(非常用ディーゼル発電設備)

2020年7月

東京電力ホールディングス株式会社

## 2 非常用発電装置

### 2.1 非常用ディーゼル発電設備

#### (2) 内燃機関

##### イ 機関及び過給機

- ・常設
  - a. ディーゼル機関

##### ロ 調速装置及び非常調速装置

- a. 調速装置及び非常調速装置

##### ハ 内燃機関に附属する冷却水設備

- ・常設
  - a. 機関付清水ポンプ

##### ニ 内燃機関に附属する空気圧縮設備

###### 1 空気だめ

- ・常設

###### 2 空気だめの安全弁

- ・常設

###### 3 圧縮機

- ・常設
  - a. 空気圧縮機

##### ホ 燃料ディタンク又はサービスタンク

- ・常設
  - a. 燃料ディタンク

#### (4) 燃料設備

##### イ ポンプ

- ・常設
  - a. 燃料移送ポンプ

##### ロ 容器

- ・常設
  - a. 軽油タンク（重大事故等時のみ 6, 7 号機共用）

##### ニ 主配管

- ・常設

#### (5) 発電機

##### イ 発電機

- ・常設

##### ロ 励磁装置

- ・常設

##### ハ 保護継電装置

##### ニ 原動機との連結方法

- a. 発電機

2 非常用発電装置に係る次の事項

2.1 非常用ディーゼル発電設備

(2) 内燃機関に係る次の事項

イ 機関の名称, 種類, 出力, 回転速度, 燃料の種類及び使用量, 個数並びに取付箇所並びに過給機の種類, 出口の圧力, 回転速度, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

a. ディーゼル機関

			変 更 前			変 更 後			
名 称			ディーゼル機関			変更なし			
機 関	種 類	—	4 サイクルたて形 <input type="checkbox"/> 気筒ディーゼル機関						
	出 力	kW/個	5295 *1, *2						
	回 転 速 度*3	rpm	1000						
	燃 料	種 類	—	軽油					
		使 用 量	L/h/個	<input type="text"/>					
	個 数	—	3						
取 付 箇 所	系 統 名	—	ディーゼル機関 A 非常用ディーゼル 発電設備 7A	ディーゼル機関 B 非常用ディーゼル 発電設備 7B	ディーゼル機関 C 非常用ディーゼル 発電設備 7C				
	設 置 床	—	原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm				

				変更前	変更後		
機 関	取 付 箇 所	溢水防護上の 区画番号	—	—	R-1F-3	R-1F-6	R-1F-5
		溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—	E. L. 0. 35m 以上	E. L. 0. 33m 以上	E. L. 0. 34m 以上
過 給 機	種 類	—	排気タービン式			変更なし	
	出 口 の 圧 力	kPa	<input type="text"/>	*1 (最大連続回転時)			
	回 転 速 度*3	rpm	<input type="text"/>	(最大連続回転数)			
	個 数	—	6 (ディーゼル機関1個につき2)				
	取 付 箇 所	—	ディーゼル機関と同じ				

注1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「(6)内燃機関に附属する煙突」の記載を削除。

注2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「発熱量」の記載を削除。

注3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「硫黄分」の記載を削除。

注4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「窒素分」の記載を削除。

注5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「灰分」の記載を削除。

注6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「排出ガス量」の記載を削除。

注7 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「ばい煙量」の記載を削除。

注8 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「ばい煙濃度」の記載を削除。

注9 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「常用又は非常用の別」の記載を削除。

注10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「過給機」の「名称」の記載を削除。

注記\*1 : SI 単位に換算したものである。

\*2 : 公称値を示す。

- \*3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。
- \*4 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「6 (ディーゼル機関 1 台につき 2) 」と記載。

ロ 調速装置及び非常調速装置の名称及び種類

a. 調速装置及び非常調速装置

			変 更 前		変 更 後
			調速装置*1	非常調速装置*2	変更なし
名	称	—	油圧式	電気—空気式	
種	類				

注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「a. 調速装置」と記載。

\*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「b. 非常調速装置」と記載。

ハ 内燃機関に附属する冷却水設備の名称、種類、容量、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

a. 機関付清水ポンプ

		変更前			変更後	
名称		機関付清水ポンプ*1			変更なし	
種類	—	うず巻形*1				
容量*2	m <sup>3</sup> /h/個	□以上*1(□*3)				
個数	—	3 (ディーゼル機関 1 個につき 1) *4				
取付箇所	系統名	—	*1 機関付清水ポンプ A 非常用ディーゼル 発電設備 7A	*1 機関付清水ポンプ B 非常用ディーゼル 発電設備 7B		*1 機関付清水ポンプ C 非常用ディーゼル 発電設備 7C
	設置床	—	*1 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	*1 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm		*1 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm
	溢水防護上の 区画番号	—	—			
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—			

注記\*1 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格容量」と記載。

\*3 : 公称値を示す。

\*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3 (ディーゼル機関 1 台につき 1) 」と記載。

ニ 内燃機関に附属する空気圧縮設備に係る次の事項

1 空気だめの名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変 更 前	変 更 後
名 称			空気だめ*1	変更なし
種 類	—		たて置円筒形	
容 量	m <sup>3</sup> /個		2.2 以上*2(3*3)	
最 高 使 用 圧 力	MPa		3.24*4	
最 高 使 用 温 度	℃		90*2	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	1200*3	
	胴 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> *5(22.0*3)	
	鏡 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> *5(22.0*3)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1200*3, *5 (鏡板の内面における長径)	
			300*3, *5 (鏡板の内面における短径の2分の1)	
	管台外径(空気入口)	mm	48.6*3, *5	
	管台厚さ(空気入口)	mm	<input type="text/"/> (5.1*3) *5	
	管台外径(空気出口)	mm	60.5*3, *5	
	管台厚さ(空気出口)	mm	<input type="text/"/> (5.5*3) *5	
	マンホール内径	mm	380.0*2, *3 (だ円形マンホール内径の長径)	
280.0*2, *3 (だ円形マンホール内径の短径)				
マンホール厚さ	mm	<input type="text/"/> (22.0*3) *5		

			変更前			変更後		
主要寸法	マンホールふた厚さ	mm	□ (36.0* <sup>3</sup> )			変更なし		
	高さ* <sup>6</sup>	mm	2904* <sup>3</sup> , * <sup>7</sup>					
材料	胴板	—	SGV480* <sup>8</sup>					
	鏡板	—	SGV480* <sup>8</sup>					
	マンホールふた	—	SGV480* <sup>2</sup>					
個数	—	6 (ディーゼル機関1個につき2)						
取付箇所	系統名	—	空気だめ A-1, A-2 非常用ディーゼル 発電設備 7A	空気だめ B-1, B-2 非常用ディーゼル 発電設備 7B	空気だめ C-1, C-2 非常用ディーゼル 発電設備 7C			
	設置床	—	原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm			
	溢水防護上の 区画番号	—	—					
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—					

注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「a. 空気だめ」と記載。

\*2 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*3 : 公称値を示す。

- \*4 : SI 単位に換算したものである。
- \*5 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成 5 年 6 月 17 日付け 4 資庁第 14562 号にて認可された工事計画の IV-3-5-1-1 「非常用ディーゼル発電設備空気だめの強度計算書」による。
- \*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。
- \*7 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3104」と記載。記載内容は、設計図書による。
- \*8 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SGV49」と記載。記載内容は、設計図書による。
- \*9 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「6 (ディーゼル機関 1 台につき 2) 」と記載。

2 空気だめの安全弁の名称，種類，吹出圧力，吹出量，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

		変更前							変更後	
名 称		空気だめの安全弁*1							変更なし	
種 類	—	非平衡型								
吹 出 圧 力	MPa	3.24*2								
吹 出 量	kg/h/個	959*2								
主 要 寸 法	呼 び 径	—*3	20A*4							
	リ フ ト	mm	1.0 以上							
	のど部の径	mm	9.6*5							
	弁座口の径	mm	15.0*5							
材 料	弁 箱	—								SCPH2
個 数		—								6 (空気だめ 1 個につき 1)
取 付 箇 所	系 統 名	—	*6 空気だめの 安全弁 R43-F070A 非常用 ディーゼル 発電設備 7A	*6 空気だめの 安全弁 R43-F071A 非常用 ディーゼル 発電設備 7A	*6 空気だめの 安全弁 R43-F070B 非常用 ディーゼル 発電設備 7B	*6 空気だめの 安全弁 R43-F071B 非常用 ディーゼル 発電設備 7B	*6 空気だめの 安全弁 R43-F070C 非常用 ディーゼル 発電設備 7C	*6 空気だめの 安全弁 R43-F071C 非常用 ディーゼル 発電設備 7C		
	設 置 床	—	*7 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	*7 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	*7 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	*7 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	*7 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	*7 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm		

			変 更 前	変更後
取 付 箇 所	溢水防護上の 区 画 番 号	—	—	変更なし
	溢水防護上の 配慮が必要な 高 さ	—	—	

注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「b. 空気だめの安全弁」と記載。

\*2 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成5年6月17日付け4資庁第14562号にて認可された工事計画のIV-4-3「非常用ディーゼル発電設備空気だめの安全弁の吹出量計算書」による。

\*3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(A)」と記載。

\*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「20」と記載。

\*5 : 公称値を示す。

\*6 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*7 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉建屋内（非常用ディーゼル発電設備空気だめ）」と記載。記載内容は設計図書による。

3 圧縮機の名称, 種類, 容量, 吐出圧力, 主要寸法, 個数及び取付箇所並びに原動機の種類, 出力, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

a. 空気圧縮機

			変更前			変更後			
名称			空気圧縮機*1			変更なし			
種	類	—	往復式						
	容	量 m <sup>3</sup> /h/個	□以上*2 (□*3)						
吐出圧力		MPa	□以上*2 (□*3, *4)						
主要寸法	吐出内径	mm	25*2, *3						
	吸込内径	mm	35*2, *3						
	た	て	1700*2, *3						
	横		mm	1030*2, *3					
	高さ		mm	940*2, *3					
個		数	6 (ディーゼル機関 1 個につき 2) *5						
取付箇所	系	統 名	—	空気圧縮機 *2 R43-C005A-1, A-2 非常用ディーゼル 発電設備 7A	空気圧縮機 *2 R43-C005B-1, B-2 非常用ディーゼル 発電設備 7B				空気圧縮機 *2 R43-C005C-1, C-2 非常用ディーゼル 発電設備 7C
	設	置 床	—	原子炉建屋 *2 T. M. S. L. 23500mm	原子炉建屋 *2 T. M. S. L. 23500mm				原子炉建屋 *2 T. M. S. L. 23500mm
	溢水防護上の 区画番号		—	—					
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ		—	—					

			変 更 前	変 更 後
原 動 機	種 類	—	誘導電動機*2	変更なし
	出 力	kW/個	15*2, *3	
	個 数	—	6 (圧縮機 1 個につき 1) *2	
	取 付 箇 所	—	圧縮機と同じ*2	

注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「c. 空気圧縮機」と記載。

\*2 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*3 : 公称値を示す。

\*4 : SI 単位に換算したものである。

\*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「6 (ディーゼル機関 1 台につき 2) 」と記載。

ホ 燃料ディタンク又はサービスタンクの名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

a. 燃料ディタンク

		変更前 <sup>*1</sup>	変更後	
名 称		燃料ディタンク	変更なし	
種 類	—	たて置円筒形		
容 量	m <sup>3</sup> /個	12.6 以上 (18 <sup>*2</sup> )		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭		
最 高 使 用 温 度	℃	50		
主 要 寸 法	胴 内 径	mm		2800 <sup>*2</sup>
	胴 板 厚 さ	mm		9 <sup>*2</sup>
	鏡 板 厚 さ	mm		9 <sup>*2</sup>
	鏡板の形状に係る寸法	mm		2800 <sup>*2</sup> (鏡板の内面における長径)
				700 <sup>*2</sup> (鏡板の内面における短径の2分の1)
	管台外径 (燃料入口)	mm		60.5 <sup>*2</sup>
	管台厚さ (燃料入口)	mm		5.5 <sup>*2</sup>
	管台外径 (燃料出口)	mm		60.5 <sup>*2</sup>
	管台厚さ (燃料出口)	mm		5.5 <sup>*2</sup>
	マンホール内径	mm	500.0 <sup>*2</sup>	
マンホール厚さ	mm	9.0 <sup>*2</sup>		
マンホールふた厚さ	mm	12.0 <sup>*2</sup>		
高 さ	mm	3678 <sup>*2</sup>		

			変 更 前*1			変 更 後		
材 料	洞	板	—	SS400			変更なし	
	鏡	板	—	SS400				
	マンホールふた		—	SS400				
個	数	—	3 (ディーゼル機関 1 個につき 1) *3					
取 付 箇 所	系	統	名	—	燃料ディタンク A 非常用ディーゼル 発電設備 7A	燃料ディタンク B 非常用ディーゼル 発電設備 7B		燃料ディタンク C 非常用ディーゼル 発電設備 7C
	設	置	床	—	原子炉建屋 T. M. S. L. 23500mm	原子炉建屋 T. M. S. L. 23500mm		原子炉建屋 T. M. S. L. 23500mm
	溢	水	防	護	上	の		—
	区	画	番	号	—	—		
	溢	水	防	護	上	の		—
	配	慮	が	必	要	な		高
	さ			—	—			

注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料貯蔵量 (ディーゼル機関 1 台につき) 燃料ディタンク : 18m<sup>3</sup> (定格運転 8 時間分)」と記載。記載内容は設計図書による。

\*2 : 公称値を示す。

\*3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3 (ディーゼル機関 1 台につき 1)」と記載。

(4) 燃料設備に係る次の事項

イ ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

a. 燃料移送ポンプ

			変更前	変更後		
名 称			—	燃料移送ポンプ*1		
種 類	—			スクリー式		
容 量	m <sup>3</sup> /h/個			□以上 (□*2)		
吐 出 圧 力	MPa			□以上 (□*2)		
最 高 使 用 圧 力	MPa			0.98		
最 高 使 用 温 度	℃			66		
主 要 寸 法	吸 込 内 径	mm		65*2		
	吐 出 内 径	mm		50*2		
	た て	mm		275*2		
	横	mm		490*2		
	高 さ	mm		135*2		
材 料	ケ ー シ ン グ			SC450		
個 数	—			3 (ディーゼル機関1個につき1)		
取 付 箇 所	系 統 名	—		燃料移送ポンプ A 非常用ディーゼル 発電設備 7A	燃料移送ポンプ B 非常用ディーゼル 発電設備 7B	燃料移送ポンプ C 非常用ディーゼル 発電設備 7C
	設 置 床	—		屋外 T. M. S. L. 12000mm	屋外 T. M. S. L. 12000mm	屋外 T. M. S. L. 12000mm
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	屋外	屋外	屋外	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	E. L. 0. 49m 以上	E. L. 0. 48m 以上	E. L. 0. 49m 以上	

			変 更 前	変 更 後
原 動 機	種 類	—	—	誘導電動機
	出 力	kW/個		2.2*2
	個 数	—		3 (ポンプ 1 個につき 1)
	取 付 箇 所	—		ポンプと同じ

注記\*1 : 本設備は既存の設備である。

\*2 : 公称値を示す。

ロ 容器の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

a. 軽油タンク (重大事故等時のみ 6, 7 号機共用)

			変 更 前	変 更 後
名 称				*1 軽油タンク (重大事故等時のみ 6, 7 号機共用)
				(A)
種 類	—			たて置円筒形
容 量	kL/個			□以上(565*2)
最 高 使 用 圧 力	MPa			静水頭
最 高 使 用 温 度	℃			66
主 要 寸 法	胴 内 径	mm		9800*2
	側 板 厚 さ	mm		□(□*2)
	底 板 厚 さ	mm		□(□*2)
	屋 根 板 厚 さ	mm		□(□*2)
	管 台 外 径 ( 液 出 口 )	mm		76.3*2
	管 台 厚 さ ( 液 出 口 )	mm		□(7*2) □(□*2)
	側 マンホール 外 径	mm		712*2 711.2*2
	側 マンホール 厚 さ	mm		□(□*2)
	側 マンホール ふた 厚 さ	mm		40*2 □(□*2)
	高 さ	mm		9500*2
材 料	側 板	—		□
	底 板	—		□
	屋 根 板	—		□
	マンホール ふた	—		□
個 数	—			2*3
取 付 箇 所	系 統 名	—		軽油タンク A 非常用ディーゼル発電設備 7A, 7C 軽油タンク B 非常用ディーゼル発電設備 7B
	設 置 床	—		屋外 T. M. S. L. 12000mm
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		—

注記\*1 : 非常用電源設備のうち非常用発電装置（代替交流電源設備、緊急時対策所代替電源設備、監視測定設備用電源設備）及び補機駆動用燃料設備のうち燃料設備と兼用。

\*2 : 公称値を示す。

\*3 : 非常用電源設備のうち非常用発電装置（代替交流電源設備、緊急時対策所代替電源設備、監視測定設備用電源設備）及び補機駆動用燃料設備のうち燃料設備として使用する場合は、軽油タンク（6号機設備、重大事故等時のみ6,7号機共用）を含めて個数1(予備3)とする。

ニ 主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前						変更後					
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
非常用ディーゼル発電設備 燃料油系	—	—	—	—	—	*1 軽油タンク ～ 燃料移送ポンプ	0.10	66	76.3*2	7.0*2	STPT410
						76.3*2			<input type="text" value="7.0"/> (7.0*2)	STPT410	
						76.3*2			5.2*2	STPT410	
						燃料移送ポンプ ～ 燃料ディタンク	0.98	66	60.5*2	5.5*2	STPT410
						60.5*2			5.5*2	SUS304TP	

注記\*1：本設備は既存の設備である。

\*2：公称値を示す。

(5) 発電機に係る次の事項

イ 発電機の名称, 種類, 容量, 主要寸法, 力率, 電圧, 相, 周波数, 回転速度, 結線法, 冷却方法, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変更前			変更後		
名称			発電機			変更なし		
種類	—		同期発電機					
容量	kVA/個		6250					
主要寸法	たて	mm	4365 <sup>*1, *2</sup>					
	横	mm	4260 <sup>*1, *2</sup>					
	高さ	mm	2451 <sup>*1, *2</sup>					
力率	—		0.8					
電圧	V		6900					
相	—		3					
周波数	Hz		50					
回転速度 <sup>*3</sup>	rpm		1000					
結線法	—		星形					
冷却方法 <sup>*4</sup>	—		空気冷却					
個数	—		3 (ディーゼル機関 1 個につき 1) <sup>*5</sup>					
取付箇所	系統名	—	<sup>*1</sup> 発電機 7A 非常用ディーゼル 発電設備 7A	<sup>*1</sup> 発電機 7B 非常用ディーゼル 発電設備 7B	<sup>*1</sup> 発電機 7C 非常用ディーゼル 発電設備 7C			
	設置床		<sup>*1</sup> 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	<sup>*1</sup> 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	<sup>*1</sup> 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm			

			変 更 前	変 更 後		
取 付 箇 所	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	R-1F-3	R-1F-6	R-1F-5
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ		—	EL0. 35m 以上	EL0. 33m 以上	EL0. 34m 以上

注記\*1 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。

\*2 : 公称値を示す。

\*3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。

\*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却法」と記載。

\*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3 (ディーゼル機関 1 台につき 1) 」と記載。

ロ 励磁装置の名称、種類、容量、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

		変更前			変更後		
名称		励磁装置			変更なし		
種類	—	静止形自励式					
容量	kW/個	30					
個数	—	3（発電機1個につき1）*1					
取付箇所	系統名	励磁装置 7A 非常用ディーゼル 発電設備 7A *2	励磁装置 7B 非常用ディーゼル 発電設備 7B *2	励磁装置 7C 非常用ディーゼル 発電設備 7C *2	変更なし		
	設置床	原子炉建屋 T. M. S. L. 19700mm *2	原子炉建屋 T. M. S. L. 19700mm *2	原子炉建屋 T. M. S. L. 19700mm *2			
	溢水防護上の 区画番号	—			R-2F-9 上	R-2F-11	R-2F-10 上
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—				EL0.96m 以上	

注：記載の適正化を行う。既工事計画書の「電圧」の記載を削除。

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3（発電機1台につき1）」と記載。

\*2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

ハ 保護継電装置の名称及び種類

名 称		変 更 前	変 更 後
種 類*	自 動 遮 断 用	保護継電装置	変更なし
		発電機比率差動継電器	
		発電機逆電力継電器	
	警 報 用	発電機過電流継電器	
		発電機地絡継電器	
		発電機界磁地絡継電器	
		発電機過電圧継電器	

注記\*：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。

ニ 原動機との連結方法

a. 発電機

	変 更 前	変 更 後
原 動 機 と の 連 結 方 法	機関直結	変更なし